

ノーベル賞受賞研究を支えるオルガノの超純水技術

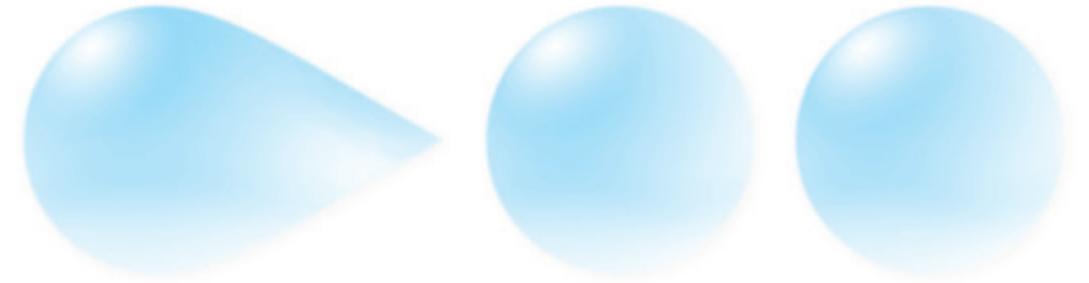
宇宙から地球へ毎秒数兆個も飛来する素粒子「ニュートリノ」。このニュートリノの観測施設が、岐阜県神岡山の地下1,000mにある「スーパーカミオカンデ」です。ニュートリノの観測には不純物を極限まで取り除いた超純水が不可欠であり、直径40m、高さ42mもの巨大な水槽はオルガノの超純水製造装置がつくりだす5万m³の超純水で満たされています。当社の技術は、ノーベル賞を受賞したニュートリノ研究にも活かされています。



平成18年度日本産業広告賞第4部佳作受賞広告

第71期中間報告書

平成27年4月1日～平成27年9月30日



Ecologically Clean

IRカレンダー (平成27年10月1日～平成28年9月30日) ※平成27年12月4日現在の予定です。



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営企画部 TEL.03-5635-5111
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



オルガノ株式会社

企業コンセプト

Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは
かけがえのない地球の未来を見つめ
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- 地球を大切にす経営
- お客様を大切にす経営
- 人を大切にす経営
- 技術を大切にす経営
- 株主を大切にす経営

株主の皆様へ



代表取締役社長

鯉江泰行

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに当社の第71期事業年度（平成27年度）中間期のご報告をさせていただきます。

1. 当第2四半期連結累計期間の概況

当期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善などから設備投資の持ち直しや個人消費の回復傾向が見込まれ、緩やかな回復基調が続きました。また、世界経済においては、米国の金融政策正常化に向けた動きのなか、中国をはじめとする新興国の景気減速などの先行き不透明感があるものの、全体としては緩やかな回復基調が続きました。

当社グループを取り巻く国内の事業環境は、電子産業分野など特定の業種や顧客に止まらず、産業全般において設備投資は増加傾向にありますが、海外需要の伸び悩みや在庫調整が企業の生産活動に影響を与えるなど、本格的な回復時期は不透明な状況です。

当社グループの主たる海外市場であるアジア地域においては、台湾などの電子産業分野で活発に設備投資がなされていますが、一方では、産業全般で価格競争が一段と激しさを増しており、引き続き厳

しい事業環境にあります。

このような状況の下、当社グループは、中長期での成長を目指し、平成27年4月より新たな3カ年の中期経営計画「Process '17」をスタートさせました。本計画では、従来から進めてきた「ワンストップソリューション（One Stop Solutions）」をベースとして、選択と集中により、排水、薬品、海外の3つの事業へ注力し、事業ポートフォリオの転換を加速するとともに、ソリューションビジネスの拡大、一層のコストダウン、工事力の強化により、安定した収益基盤を構築することを掲げ、インドでの合併事業の開始などの各種施策に取り組んでまいりました。

この結果、国内では機能商品事業の受注高及び売上が顧客工場の操業度の回復等に伴い前年同期に比べて増加し、水処理エンジニアリング事業においては受注高は電子産業分野で減少したものの一般産業分野の伸長により増加し、売上高は電子産業向けプラントやメンテナンス、改造工事の伸長などにより増加しました。海外では子会社1社を連結の範囲に含めたこと、台湾の電子産業向けプラントの拡大などにより受注高及び売上高が増加したことなどから、受注高408億円（前年同期比14.3%増）、売上高334億円（同16.9%増）となりました。

利益面につきましては、機能商品事業において営業体制強化に伴う費用の増加により利益が減少したものの、水処理エンジニアリング事業において売上拡大により利益が増加したことなどから、営業損失1億円（前年同期は営業損失4億円）、経常損失2億円（前年同期は経常損失4億円）、親会社株主に帰属する四半期純損失2億円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失5億円）と前年同期に比べ改善いたしました。

当期の中間配当金につきましては、当期間の実績及び通期の見通しを勘案し、前期末配当金と同じく1株当たり4円とさせていただきます。

2. 通期の見通し

中国の景気低迷や米国の利上げ予想に伴う新興国の通貨安や景気下降など、当社を取り巻く事業環境に不安要素

はあるものの、当期間の業績が順調に推移したことなどから、通期の業績見通しにつきましては、受注高は期初計画の750億円（前期比3.7%減）を据え置きましたが、売上高790億円（同14.9%増）、営業利益35億円（同45.9%増）、経常利益34億円（同37.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益22億円（同107.3%増）と期初予想を上方修正いたしました。

3. 今後の経営方針

当社グループは、今年度を初年度とする3カ年の中期経営計画に取り組んでおり、順調な滑り出しを見せています。しかしながら、企業の生産活動の持ち直しや設備投資の回復など好調な事業環境に支えられた側面は否めず、事業環境の変化に大きく左右されない強固な事業基盤を構築することが最大の課題と考えております。

本計画の実現に向けて、収益性・成長性の高い事業分野に対して資源の重点的投入を行い、事業ポートフォリオの自立的転換を図ってまいります。また、徹底的なコスト削減により利益率の改善を図るとともに、業務効率化と社員個々の能力アップにより生産性の向上に努めます。さらに、独創的かつ顧客にとって価値のある技術や製品の開発を進め、これらをベースにした売上の拡大に取り組んでまいります。

4. 最後に

当社グループは、大きく変化する事業環境のなかにあっても、持続可能な開発を維持し、安定的に収益をあげる企業集団を目指して、変革を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

平成27年12月



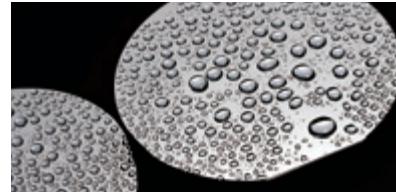
事業紹介

オルガノの事業は、『水処理エンジニアリング事業』と『機能商品事業』に分かれており、『水処理エンジニアリング事業』では、大型水処理装置の製造販売を行う「プラント事業」と納入した装置のメンテナンスや運転管理を行う「ソリューション事業」を展開しています。

▶ プラント事業

電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部へ排水を出さずに循環利用するクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の処理システム、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。



電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所において主要水処理設備である復水ろ過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持しています。さらに、国内のみならず東南アジアや米国の発電所向けにも水処理装置を納入するなど、その技術力の高さを証明しています。



東京電力㈱ご提供

上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。上水道では沈でんろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理設備など、下水道では生物処理設備、高速繊維ろ過装置など、オルガノの技術が活躍しています。



医薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でバイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供しています。



▶ ソリューション事業

メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良を提案します。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

水処理アウトソーシング受託事業

■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。

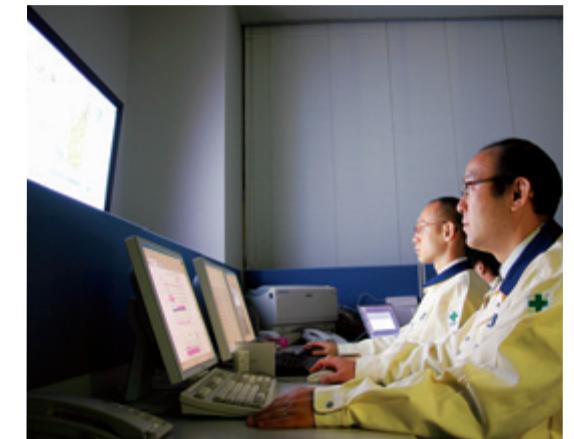


■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、お客様の水処理装置の運転状況を遠隔監視しており、状況に応じた迅速な現場対応をバックアップします。装置の運転データの変化からトラブルを予測し、水処理プラントの健全な運転に貢献します。



■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

▶ 機能商品事業

機器商品

研究所、病院などでの各種分析や検査に不可欠な純水・超純水装置を豊富にラインアップ。お客様の短納期・低コストへのニーズにお応えします。

また手軽に美味しく安全な水を提供できるフィルター型浄水器は、厨房、カフェ、自動販売機など、身近なところで活躍しています。



キャビネットタイプ超純水装置
ピュリックωシリーズ

フィルター型浄水器

水処理薬品

冷却効果を高めて省エネにつなげる冷却水処理薬品やボイラを効率的に運転する処理剤、廃棄物の削減につながる排水処理剤など、多様な水処理薬品をラインアップし、装置と組み合わせたトータルシステムの提案により、安定運転を実現します。



食品加工材

主にハムや即席めんの改良に用いられるリン酸塩で国内トップシェアの実績を有し、食品安全システムの国際規格であるFSSC22000の認証を受けた工場において、安心・安全な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しています。



イオン交換樹脂

オルガノのコア技術～イオン交換樹脂の応用技術～

当社の基幹材であるイオン交換樹脂は、水中のイオン類を吸着・除去するという特性を持っており、多くは純水やボイラー用水の製造などで広く用いられています。その一方で、その特性は水処理以外の分野でも発揮されます。当社ではこれまでイオン交換樹脂による吸着が困難とされていた条件下で、金属を吸着・回収する技術を確立しました。例えば、化学工業の分野において、低pHの排水から銅やニッケルなどの金属をイオン交換樹脂に選択的に吸着させることで、これらの金属の回収やこれらを不純物として含む液の精製・再利用を可能にしています。このように、イオン交換樹脂を応用した技術によって資源の有効利用や環境負荷低減などのニーズに対応しています。



インドで水処理合併事業を開始

当社はこれまで中国、台湾及び東南アジア諸国に現地法人を設置し、水処理事業を展開してまいりましたが、新たな海外展開として、今後産業の著しい発展が期待されるインドにおいて、同国の中堅財閥であるムルガッパグループと水処理に係る合併事業を本年9月より開始しました。合併事業開始にあたって、インド国内で水処理事業を展開してきた同グループの傘下企業の株式49%を取得するとともに、社名をムルガッパ・オルガノ・ウォーター・ソリューションズとしました。

ムルガッパグループの幅広いネットワークとオルガノの水処理関連技術を最大限に活用し、日系企業並びに現地企業の開拓を積極的に図ります。また、日本の水処理専門メーカーとして他に先駆けてインドでの市場を開拓することで、当社グループの海外事業拡大を一段と加速してまいります。



合併契約書調印式

透析向け逆浸透精製水製造装置「HDシリーズ」を販売開始

当社は、人工透析治療に用いられる精製水の製造供給装置「HDシリーズ」の販売を開始し、透析用精製水製造装置市場に参入しました。

透析治療の現場でニーズが高い省スペースとハンドリングの良さを実現するため、業界最小クラスの小型化を達成しました。

電気加熱やUF膜モジュールをはじめとする各種オプションも全てコンパクトな本体内に設置可能です。また、装置製造をISO認証取得の自社工場で行うことにより、医薬・医療用機器で重視されている品質管理の徹底を図っています。

本装置の販売開始により、病院や透析クリニック向けに、平成29年度には2億円の売上高を目指します。

従来より手掛けてきた血液分析装置向け純水装置や検査室向け超純水、地下水を原水とする飲料水供給事業等とあわせて、病院施設内での水に関わるトータルソリューションを提供してまいります。



透析向け逆浸透精製水製造装置HD-1100タイプ

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期末 (平成27年9月30日現在)	前期末 (平成27年3月31日現在)	比較増減
資産の部			
流動資産	59,731	59,293	437
固定資産	24,409	24,316	92
有形固定資産	20,173	20,288	△ 114
無形固定資産	589	463	126
投資その他の資産	3,645	3,564	80
資産合計	84,140	83,609	530
負債の部			
流動負債	28,534	28,230	304
固定負債	10,694	10,070	623
負債合計	39,229	38,301	927
純資産の部			
株主資本	44,730	45,276	△ 545
資本金	8,225	8,225	-
資本剰余金	7,508	7,508	-
利益剰余金	29,333	29,876	△ 542
自己株式	△ 336	△ 333	△ 3
その他の包括利益累計額	70	31	39
非支配株主持分	109	-	109
純資産合計	44,911	45,308	△ 396
負債純資産合計	84,140	83,609	530

◆**流動資産**
仕掛品を中心としたたな卸資産の増加などにより437百万円増加しました。
◆**固定負債**
長期借入金の増加などにより623百万円増加しました。
◆**純資産の部**
親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払に伴う利益剰余金の減少などにより396百万円減少しました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	比較増減
売上高	33,479	28,633	4,845
売上原価	26,820	22,518	4,302
売上総利益	6,658	6,115	542
販売費及び一般管理費	6,846	6,547	298
営業損失(△)	△ 187	△ 432	244
営業外収益	45	54	△ 9
営業外費用	79	66	12
経常損失(△)	△ 221	△ 444	222
特別利益	-	-	-
特別損失	6	0	5
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 228	△ 445	216
法人税等	41	138	△ 96
四半期純損失(△)	△ 269	△ 583	313
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	-	8
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 278	△ 583	304

◆**売上高**
海外の電子産業分野や一般産業分野のプラント、メンテナンス、改造工事の伸長などにより売上が増加し、機能商品事業においても標準型水処理装置と薬品の売上が堅調に推移したことなどから、売上高は33,479百万円となりました。
◆**営業損失・経常損失**
営業体制強化に伴う費用の増加などにより、機能商品事業の利益は減少しましたが、水処理エンジニアリング事業において売上増加に伴い利益面が改善し、営業損失187百万円、経常損失221百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,432	△ 4,355
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 543	△ 451
財務活動によるキャッシュ・フロー	697	191
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	△ 100
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,250	△ 4,715
現金及び現金同等物の期首残高	8,939	10,261
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	51	-
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	44
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,741	5,591

◆**営業活動によるキャッシュ・フロー**
1,432百万円の資金流出となりました。主な資金の増加は売上債権の減少によるものであり、主な支出はたな卸資産の増加によるものです。
◆**投資活動によるキャッシュ・フロー**
543百万円の資金流出となりました。主な支出は投資有価証券の取得によるものです。
◆**財務活動によるキャッシュ・フロー**
697百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は長期借入金の増加によるものです。

当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末に比べて1,198百万円減少し、7,741百万円となりました。

セグメント別業績

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)
■ 受注高		
水処理エンジニアリング事業	32,884	28,016
機能商品事業	7,935	7,687
■ 売上高		
水処理エンジニアリング事業	25,677	21,149
機能商品事業	7,801	7,484
■ 営業利益又は営業損失(△)		
水処理エンジニアリング事業	△ 848	△ 1,134
機能商品事業	661	702

【水処理エンジニアリング事業】

当事業につきましても、国内において、受注高は大型案件のあった前年同期に比べ電子産業分野で減少したものの、一般産業分野の伸長により増加しました。また、売上高は電子産業分野向けプラントやメンテナンス、改造工事の伸長などにより増加しました。一方、海外においては、海外子会社1社を連結の範囲に含めたこと、台湾の電子産業分野向けプラントの増加などにより受注高及び売上高が増加しました。この結果、受注高32,884百万円、売上高25,677百万円、営業損失848百万円となりました。

【機能商品事業】

当事業につきましても、顧客工場の操業度が緩やかに回復し、標準型水処理装置及び薬品の販売も堅調に推移していることから、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響を受けた前年同期に比べ、受注高及び売上高が増加しました。この結果、受注高7,935百万円、売上高7,801百万円となりました。利益面につきましては、事業拡大に向けた営業体制強化により、販売費及び一般管理費が増加した結果、営業利益は661百万円となりました。

当期より、組織変更に伴い従来「機能商品事業」に含まれていた中規模の標準型水処理装置の販売・メンテナンス事業を「水処理エンジニアリング事業」に含める変更を行いました。
なお、前年同期のセグメント情報は、変更後の区分方法により作成したものです。

注) 本報告書は決算短信などの数値、文章を基に作成しています。その後に公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページの掲載資料などにてご確認ください。

会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)
 創業 昭和21年5月1日
 資本金 8,225,499,312円
 従業員数 連結2,061名 (単体1,026名)
 事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631
 東京都江東区新砂1丁目2番8号
 開発センター 相模原
 工場 つくば、いわき
 支店 北海道、東北、関東、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノプラントサービス(株) (海外) Organo(Asia)Sdn.Bhd.
 オルガノフードテック(株) オルガノ(蘇州)水処理有限公司
 オルガノエコテクノ(株) オルガノ(タイ)テクノ株式会社
 オルガノアクティ(株) Organo(Thailand)Co.,Ltd.
 PT Lautan Organo Water

■ その他グループ会社

(国内) (株)ホステック (海外) Organo(Singapore)Pte Ltd
 環境テクノ(株) Organo(Vietnam)Co.,Ltd.
 東北電機鉄工(株) Murugappa Organo Water Solutions Limited

取締役・監査役・執行役員

取締役社長 鯉江泰行
 取締役兼常務執行役員 奥園修一
 取締役兼常務執行役員 渡辺大輔
 取締役兼常務執行役員 伊藤智章
 取締役兼常務執行役員 堀比斗志
 取締役兼常務執行役員 古内力
 取締役 西澤恵一郎
 取締役 中根俊章
 取締役 永井素夫
 常勤監査役 中村聖和
 常勤監査役 豊田正彦
 監査役 濱田治
 監査役 阿部嘉彦
 常務執行役員 明賀春樹
 常務執行役員 羽多野敦
 執行役員 梅香豊
 執行役員 吉田重人
 執行役員 安藤正士
 執行役員 山口良一
 執行役員 高杉仁
 執行役員 池上理一
 執行役員 塩見正樹
 執行役員 福田和久
 執行役員 真鍋敏樹

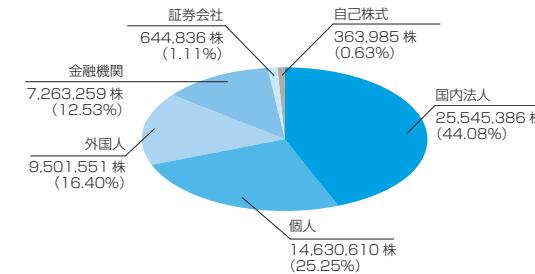
(注1) 鯉江泰行は代表取締役であります。
 (注2) 中根俊章及び永井素夫は社外取締役であります。
 (注3) 濱田治及び阿部嘉彦は社外監査役であります。
 (注4) 中根俊章及び永井素夫は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

株式の状況

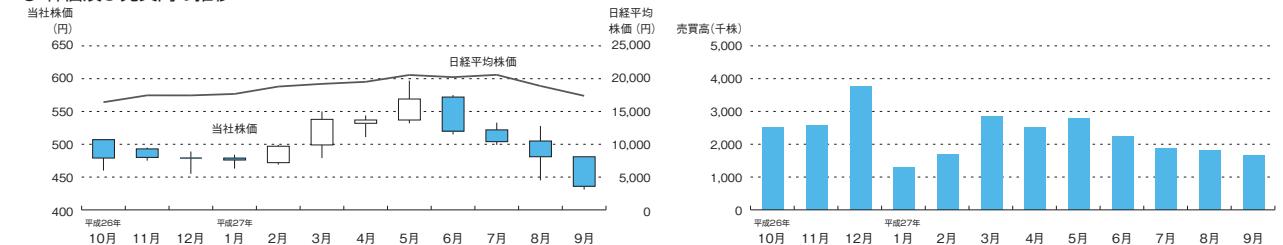
- 発行可能株式総数 126,960,000 株
- 発行済株式総数 57,949,627 株
- 株主総数 7,125 名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
ビービーエイチザアドバイザーズインナーサークル ファンド ツー コベルニク グロ オール キャップ ファンド	1,855	3.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,164	2.01
株式会社みずほ銀行	1,000	1.73
みずほ信託銀行株式会社	775	1.34
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	759	1.31
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	718	1.24
オーエム44ステートストリート808359クライアントオムニ	621	1.07
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	538	0.93
MSCO CUSTOMER SECURITIES	428	0.74

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 単元株式数 1,000株
 公告掲載方法 電子公告
 公告掲載アドレス <http://www.organo.co.jp/>
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 連絡先 〒168-0063
 [郵便物送付先] 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 [電話照会先] 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)
 三井住友信託銀行株式会社 全国本支店
 受付窓口 <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
 ホームページアドレス <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

株式に関する諸手続のお申し出先について

■住所変更、配当受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続につきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。
 ■証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
 ■未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社の全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)でお取り扱いいたします。

中間配当金のお支払についてのご案内方法

中間配当金お支払についての取締役会決議の内容は、郵送による通知に代えて、当社ホームページ (<http://www.organo.co.jp/>) 上でご案内させていただきます。